



オーストラリア・シドニー

日本語教師アシスタントプログラム 2021



株式会社キャリアエクスチェンジ

〒104-0061 東京都中央区銀座3-11-3 LEAGUE303号

電話 03-6278-8750

URL: www.career-ex.com E-mail: info@career-ex.com

日本語教師アシスタントプログラムとは？

こんな希望を持つ方におすすめです

- 将来日本語教師を目指している
- 将来先生（小・中・高校）を目指している
- 既に先生だがそのキャリアアップを図りたい方
- 児童英語教師を目指している
- 実践的な英語を身に付けたい
- 受け身な英語ではなく自ら発話する英語力を身に付けたい
- 将来英語の環境で働きたい
- 日本人のいない地域で生活したい



海外日本語教育の現状と日本語教師の需要について

【海外日本語教育の現状】

近年、海外において日本語教育を何らかの形で取り入れている国は増加の一途を辿っている。その教育内容は国や教育機関によって異なっており、日本語を専門的に学ぶことを主な目的とする国・教育期間もあるが、多くの学校は折り紙、習字、茶道、華道といった日本固有の文化を通じて日本語・日本文化を学び、日本への興味を持つことを主な目的とする教育方式を採用している。このような日本語教育の現場では日本語を母国語とし、日本文化を熟知した教師、すなわち日本人による日本語教師の必要性が高く求められている。しかし、実際に日本語教師として海外にて就労するためには、各国により定められた経験・語学力・資格を満たさねばならず、狭き門となっているのが現状である。

【日本語アシスタント教師とは？】

そんな中、プロの日本語教師としてではなく、日本語教育現場にてアシスタントとして現地の子供達に日本語・日本文化を伝えるべく世界中で活躍しているのが「ボランティアとしての日本語教師」である。ここで言う日本語教師とは、現地の日本語教師もしくは外国语教師のティーチング・アシスタントとして教壇に立ち、現地の生徒たちに日本語・日本文化を伝えるために、学校に迎えられたスタッフの一人である。派遣される教師に最も必要とされるのは向上心と熱意と積極性であり、通常、経歴や資格は一切必要ない。現在、数多くのボランティア日本語教師が世界で日本語・日本文化の普及に貢献し、日本よりの親善大使として日本と海外との国際交流に重要な役割を担っている。

【プログラムの位置づけ】

単なる留学だけではなく、『日本人』という武器を使うインターンシップのプログラム。学校では積極的に英語を使いながら日本を教えるという（間接法という教授法）環境下なので、英語を使わざるを得ない環境での活動となる。また、現地の生活に密着し、通常の留学では味わうことのできない現地学生・学校スタッフ及び地域住民との触れ合い、教壇に立つことの責任感等を体験（英語環境の現場に立つことができる）。日本人のあまりいない地域で1人で生活する充実感と感動を体験し、教育フィールドや英語を使用することに関してキャリアアップを目的とする方にお薦めのプログラムである。

ボランティア日本語教師として派遣されることにより、学校のスタッフの一員としてその教育現場に参加し、スタッフ、生徒、地域の人々との触れ合いや、ホームステイにおける異文化、生活習慣の体験、その見るもの、体験するもののすべてに感動を覚えることができます。現地の生活に飛び込むことから、1日中英語漬けの生活に浸ることにより、1日毎に英語が上達する実感があるでしょう国際化という言葉が呼ばれて久しい現在、世界の国々はよりいっそう身近なものとなっていますが、眞の国際的相互理解というものは学習で身につくものではなく、体験し、実際にコミュニケーションを取り、はじめて身につくものです。参加者がプログラムの体験を通じ、語学としての英語ではなく、人と人との交流を図るコミュニケーションとしての英語を身に付け、海外の異文化を肌で感じ、自国の言語そして文化を広く海外に紹介する国際貢献という貴重な経験を通じて、一方で自らは、眞の国際人として今後の国際社会に羽ばたいて行く素養を身に付けることができるでしょう。

オセアニアの日本語教育事情

小学校 Primary School

日本語教師のアシスタントとして、ネイティブの日本人にしかできないことを担当（発音の見本。折り紙、歌、物語等の文化紹介。料理作成、指導。教材の作成。生徒との日本語でのコミュニケーション等）。
基本的にはメインの教師の方針に従いながら、自分で出来るもの、紹介したいものを提案し、授業と一緒に進めて行く。
小学校ではメインの日本語の先生がいない場合もあり、その場合はアシスタントという肩書きだが、実際にはメインとして自分で授業を行う場合がある。校長先生等のほかの先生からのサポートはあるので安心だが、全く教えた経験がない方などには厳しい環境かもしれない。また小学校は行事も多いので、日本語の授業以外にも一先生として活躍が出来る環境下である。
また将来小学 校英語指導者になりたい(J-shine)方にはお薦めの環境。

中学校・高校 Secondary School

Primary School と同様、ネイティブの日本人にしかできないことを担当。学期末には成績表作成、試験問題作成、添削等の作業もある。Secondary の日本語クラスのレベルは学校により異なるが、かなり高度な内容の授業が一般的。またよりアカデミックな傾向が強くなるため、より高い英語力を必要とされる。基本的な授業の進め方は Primary School と同様だが、個人レッスンを任せられることもある。ただ、担当する内容は学校によって様々。基本的にはメインの先生の指導の下進めていくが、状況によりアシスタント業務のみを担当する場合から、メインとして授業をいくつか任されるケースまでいろいろある。尚、英語を使いながら教える間接法が主体だが、クラスでは唯一ネイティブの日本人から日本語を聞ける時間でもあるので、日本語を使用しながら教えることももちろん有り、担当の先生によっては、なるべく日本語を話すことを依頼されることもあります。また、高校 3 年生に対して大学受験に向けて面接の試験に備えるため、日本語を日本語で指導する直接法を使用して指導するように依頼される場合もある。会話の授業を良く任されるケースが高い。

【オプション】11週間日本語教師養成講座 in シドニー

日本語教師アシスタントプログラム参加前に、シドニーにおいて養成講座の受講も可能です。年に7回の開講日、期間は11週間です。18歳以上の方であれば英語力を問わずどなたでも受講していただけます。

日本の日本語学校が日本語教師になるために必要としている学習時間が420時間の日本語教師養成講座の資格。この講座も420時間の資格なので、主な教育機関の採用条件にも適応しています。もちろん420時間のサーティフィケイト（修了証）を発行します。また、全養協（全国日本語教師養成協議会）の加盟校があるので、全養協加盟校の入った修了証も発行されます。修了後、全養教日本語検定試験を受験することもできます。

修了後、シドニーで日本語教師アシスタントインターンシップを行うことで実務経験を得ることができ、その後アジアなど他国で日本語教師として活躍しキャリアアップを図ることもできます。

11週間プログラム費用 AUS\$4950

※420時間の修了証は、講座を修了した受講者及び卒業試験の合格者に対して発行されます

※講座の受講期間は11週間ですが、コースによって途中に1週間の休みが入る場合があります。その場合は、合計の滞在期間は12週間となります

※この講座の講師は、日本及び英語圏での日本語教師としての指導歴がありオーストラリアの大学においても指導の経験があります。海外の日本語学校の状況把握にも長けており、実際の就職の際には就職試験対策の指導も対応しています。

※通信講座（AUS\$1740）もございます。

詳細は、カウンセラーまでお問い合わせください。



オーストラリア日本語教師アシスタント活動について

ほとんどの学校にはメインの日本語教師がいるが派遣校によってはいない場合もあります。メインの先生がいらっしゃらない場合は、自分で教案を作成し、スケジュールを立て対応することも有ります。必ず他の学校の先生のサポートがありますが、全て受け身ではなく、自主的に活動できることが望ましいです。

学校の種類

小学校、中学校、高校、大学、民間日本語学校。
また、公立、私立、女子高、男子校、一貫校など。

講師の種類

日本人講師、現地ネイティブ講師（日本語流暢な方もいますし、そうでもない先生もいます）

日本語教育の環境	参加に適したタイプ	参加条件など
日本語が第一外国語であるため、日本語、日本文化紹介の授業を取り入れている小中高校は多く、日本語のメイン教師や教材がおいてある学校もあるほど日本語教育環境が整っています。 親日家の国でもあるため日本人にとっては活動のしやすい国といえる。	<ul style="list-style-type: none">英会話力にちょっと自信の無い方。日本語を教えた事の経験が無い方なるべく多くの日本語の授業に携わりたい方。	<ul style="list-style-type: none">間接法という英語を使って授業をするので、自然と使える英語が身に付く生活物価が欧米と比べると安いWHビザの場合は6ヶ月までの活動が可能。現地学期は1月、4月、7月、10月開始の4学期制。

日本語教師アシスタント活動 1日のスケジュール例

- ◆ 7:00 起床／朝食
- ◆ 7:45 家を出る
- ◆ 8:00 学校到着／授業の準備
- ◆ 9:00 授業開始（1クラス 30分 × 3クラス）
- ◆ 10:30 モーニング・ティー・タイム
- ◆ 11:00 授業（3クラス）
- ◆ 12:30 ランチ・タイム
- ◆ 13:30 授業（3クラス）
- ◆ 15:00 授業終了



* ホームステイ先の子供達が、毎日習い事をしているのでその間買い物をしたり、図書館に行ったりしている。

- ◆ 17:00 帰宅
- ◆ 19:00 夕食

* 上記のスケジュールはあくまでも一例であり、派遣国・派遣学校により異なる学期と学期の間に2週間程度の休み（スクールホリデー）があります。その間にできるだけ観光や国内旅行などを楽しみましょう。

スクール・ホリデー期間の行動例：

他の参加者と一緒に観光旅行・ホスト・ファミリーと一緒に観光旅行・語学学校に通う・その他

オーストラリア日本語教師プログラム費用概算

短期プログラム(1~4週間)

	1週間	2週間	3週間	4週間
プログラム選考登録費	¥33,000	¥33,000	¥33,000	¥33,000
プログラム費用	¥158,000	¥178,000	¥198,000	¥218,000
滞在先手配費用	¥35,000	¥35,000	¥35,000	¥35,000
ホームステイ個室費用 AUS\$=80円	¥40,800 平日2食/週末3食	¥64,000 平日2食/週末3食	¥87,200 平日2食/週末3食	¥110,400 平日2食/週末3食
現地生活費・交通費等 (目安)	¥25,000	¥35,000	¥52,500	¥70,000
海外保険料	¥9,120	¥13,600	¥17,570	¥19,640
往復航空券 (目安)	¥80,000	¥80,000	¥80,000	¥80,000
合計 日本円	¥380,920	¥438,600	¥503,270	¥566,040

長期プログラム(3~12ヶ月間)

	1学期間 3ヶ月間	2学期間 6ヶ月間	3学期間 9ヶ月間	1学年間 12ヶ月間
プログラム選考登録費	¥33,000	¥33,000	¥33,000	¥33,000
プログラム費用	¥328,000	¥358,000	¥388,000	¥418,000
滞在先手配費用	¥35,000	¥35,000	¥35,000	¥35,000
ホームステイ個室費用 AUS\$=80円	¥296,000 12週間 平日2食/週末3食	¥110,400 4週間 平日2食/週末3食	¥110,400 4週間 平日2食/週末3食	¥110,400 4週間 平日2食/週末3食
海外保険料	¥52,440	¥108,010	¥165,520	¥223,120
往復航空券 (目安)	¥80,000	¥80,000	¥80,000	¥80,000
小計 日本円	¥824,440	¥724,410	¥811,920	¥899,520
現地シェアアパート (目安)	—	¥280,000 (56,000円/月)	¥448,000 (56,000円/月)	¥616,000 (56,000円/月)
現地生活費・交通費等 (目安)	¥168,000 (56,000円/月)	¥336,000 (56,000円/月)	¥504,000 (56,000円/月)	¥672,000 (56,000円/月)
合計 日本円	¥992,440	¥1,340,410	¥1,763,920	¥2,187,520

- 上記プログラム費用にはオーストラリアワーキングホリデービザ申請費\$485は含まれておりません。
- 留学生保険料金は代表的プラン料金を参考金額として掲載。補償内容・ご契約プランによって保険加入料が異なります。
- 上記に含まれない費用： 空港送迎、現地生活サポート等、オプションサービスの追加はお問い合わせ下さい。
- プログラム費用は、教育機関等の都合および為替レート変動により予告なく変更されます。最新料金はお問い合わせ下さい。

Career Exchange Inc, All Rights Reserved.

日本語教師アシスタントプログラム参加の流れ



- 1学期以上の期間で参加の場合はオーストラリアワーキングホリデービザ取得が必須です。
- 選考の結果によっては他プログラムや事前語学コース受講などのご提案をさせていただきます。事前英語コース受講の場合研修開始の1ヶ月前に入国していただき語学学校に通っていただきます。
- 受け入れ教育機関の状況により、研修開始時期直前に派遣校が決定、または変更になる場合があります。
- 渡航まで平均6ヶ月の期間を要します。希望渡航時期に出発するためにできるだけ早くのお申込をしていただくようにお願いいたします。

日本語教師アシスタント よくある質問

Q 1. 教師としての経験がなくてもこのプログラムに参加できるのでしょうか？

A. はい、できます。必ずしも教師の資格がなくてはいけないという規定はありません。しかし派遣校では教える事の好きな方、又は教えた経験のある方が好まれる傾向にあります。

Q 2. 授業のすべてをいきなり任されるのでしょうか？

A. 派遣校によって異なります。日本語教師がいる学校では、初めから授業のすべてを任される事はありませんが、日本語教師のいない学校では数週間後から自分で授業のカリキュラムを組んでいく場合があり、授業を任されるチャンスもあるでしょう。ただし、このような場合でも、クラスの担任教師がいるので、授業の進め方などについては随時相談可能です。

Q 3. 学校やホームステイではどの程度の英語力が必要ですか？

A. 一般的な会話が困難なくできるくらいの英語力が必要となります。学校では特に英語授業を進めていかなければならず、自分の意志が英語で伝えられるくらいの会話力が必要となります。目安としては英検2級、TOEIC600点程度。

Q 4. プログラム参加の年齢制限はありますか？

A. 基本的には20歳以上となります。また、国によってビザ取得条件の問題上年齢制限があります。

Q 5. 派遣される地域や学校の形態は選べますか？

A. 派遣校については、出来るだけ参加者の希望に添えるよう調整していますが、学校側の要望もあるため、希望に添えない場合もあり得ます。基本的に派遣校は、都市部から離れた田舎にある場合がほとんどです。都市部への派遣の希望は従って、難しい場合も有るでしょう。学校の形態については、参加者の希望、資格、経験を考慮した上で最終的に決定致します。また、日本語教師のいない学校に派遣される場合もありますが、その場合も参加者の資格、経験等を考慮したうえで派遣先を決定します。

Q 6. 日本で事前に用意しておくものはありますか？

A. 日本語で書かれているものなどが喜ばれます。例えば、まんが本、チラシや広告、日本食料理の本、レストランメニュー、日本の教科書、ハンコ等。他には日本地図、日本食の材料、日本のお金（コインなど）、写真などがあると便利です。

Q 7. 準備研修はどのような内容ですか？（下記はあくまでもサンプルです）

A. 例：第1日目－ プログラム紹介／現地での暮らし方（ホームステイ、学校生活案内） 第2日目－ 日本語教授法の移り変わり／日本語教師としての心構え 第3日目－ 授業デモンストレーション／ロールプレイング 第4日目－ 様々な文化及びゲームの紹介の方法／授業を楽しくする方法 第5日目－ 参加者の意見発表／意見交換／デモンストレーション／ロールプレイング

Q 8. 準備研修中の英語集中講習はどのような内容ですか？

A. 普段学校で使用している英語のフレーズを中心に、英語で日本語を教える為の授業内容計画方法、授業中の生徒との接し方、学校のスタッフやホームステイの方々とのコミュニケーションの方法などを含めてすべて英語で授業を行います。

Q 9. 現地の日本語教師は日本人なのですか？

A. 一般的に大学以外で日本人の日本語教師のいる学校は、オーストラリア、ニュージーランド、カナダには少なく、現地人の教師が日本語を担当しているケースが多いです。が、最近は日本人の教師も増えてきています。

Q10. 1日にどのくらい日本語の授業がありますか？

A. 学校によって様々です。オーストラリアの場合通常朝9時から3時まではフルで授業があり、午前中（約11:30頃）に1回、午後（1:30くらいからのお昼休み）に1回ずつ休みが入ります。
例 - 午前中、低学年の2クラスを教える（簡単なセンテンス、ゲームなど）午後、高学年の2クラスを教える（新しいセンテンス、漢字、文化紹介など）カナダについては、正規の授業科目として日本語の授業を行っている学校では、日本語教師のアシスタントとして、通常1日2~3時間の授業があります。それ以外の学校では、担当教師と相談の上、日本に関する授業を行うケースが多いです。また、英語で行われる他の授業のアシスタントをすることもあります。尚、プログラム参加者の多くは、昼休みや放課後に日本クラブをつくり、日本文化の紹介（折り紙・簡単な日本語紹介など）を行っています。

Q11. 週何日学校へ行きますか？

A. 現地の学校は平日、月曜日から金曜日の5日間。皆さんもスタッフの一員なので5日間学校に行くことが基本です。

Q12. 空いている時間はどのように過ごしますか？

A. 学校では、スタッフとコミュニケーションを取るチャンスです。ほとんどの参加者はスタッフルームで休憩をしたり、次の授業の準備をしたりします。また図書館で自分なりの時間を過ごしたり、英語力を伸ばすために英語の授業に生徒として出席することもあります。またホームステイ先では、週末など家族と過ごして現地の生活を満喫することも可能です。

Q13. ホームステイはどのようなものですか？

A. 基本的に学校関係者宅（派遣校の教師宅または生徒宅等）になります。但し、派遣先によっては学校の事情により、学校関係者以外になる場合もあります。ホームステイ先では、家族の一員となって家族行事に参加したり、手伝いも進んでする様に心がけましょう。自分自身を居心地よくさせる為にはホストファミリーの一員となることが大切です。尚、ホームステイ先は受入先の希望により派遣期間中複数になる場合もあり、ホームステイ代に関しても受入先によって異なります。尚、学校のホリデー期間中は、家族の方も旅行に行かれたりする場合があるので、基本的には滞在することができません。（但し、ホームステイ先の家族が了承した場合は、滞在することは可能。）

Q14. ホームステイ先から派遣校までの交通手段は？

A. 基本的には徒歩、スクールバス、またはホームステイ先による送迎等により移動します。但し、派遣先によっては公共の交通機関を使用する場合もあり、その場合は現地での実費払いとなります。

Q15. 参加費用の他にどのくらいの費用がかかりますか？

A. ホームステイ代、現地でのお小遣い、スクール・ホリデー中の生活費、派遣校の移動がある方はその分の交通費が必要となります。オーストラリア、ニュージーランドのスクールホリデーは年に4回あり、クリスマス・ホリデー以外は約2週間、クリスマスホリデーは約6週間あります。また、ホリデー中には国内旅行に行われる方がほとんどのようです。尚、カナダの場合は地域によって、通常のホームステイ代とかわらない場合や、ホリデー期間中、旅行等の長期不在をしても、ホームステイ代の支払いはしなければならないところがあります。

Q16. 月々のお小遣いはどのくらい必要ですか？

A. 派遣期間中は、ホームステイ代以外は特に多額のお金が必要になる事はありません。外食は夕食で一人約\$25～\$30が目安。但し、ホリデー中は過ごし方により出費が異なります。

Q17. 現地でのサポートはどのようなものですか？

A. 1週間の準備研修が派遣地出発前に現地オフィスにて行われます。また、現地の日本人専任コーディネーターが、定期的に参加者や派遣校に連絡したり、毎月参加者には他の参加者の情報としてレポートが送付されます。ビザの相談、派遣後の進路相談にも応じます。

Q18. 現地で参加期間の延長は可能ですか？

A. 参加期間の合計が12ヶ月間までは延長が可能な場合があり（派遣国の状況により異なる）ます。延長希望の場合には各派遣国の現地事務所へ事前に連絡し手続きをとります。その際にビザの延長が必要となるため、申請料を現地にて支払う必要があります。派遣校は状況により変わらない場合と変わる場合があります。又、延長の申込をした段階で、延長分の参加費用の差額を支払う必要があります。また、参加者の保持しているビザの期限内で、1～2ヶ月の延長をする場合は、必ず現地オフィスに連絡を入れ、延長分の料金を支払う必要があります。その場合の費用は、派遣校が決定した時点での支払いとなります。尚、延長希望の連絡が遅かった場合、学校の手配及びビザの延長が間に合わず、延長できないこともあるため、できるだけ早く現地事務所に連絡を入れてください。

Q19. 派遣される学校は滞在中1校？それとも複数校ですか？

A. 派遣校は複数（2～3校）の場合と1校だけの場合があります。受入校の希望の期間よりも参加者の希望期間が長い場合は、複数となる場合があります。その際の移動交通費はご本人負担で実費となります。

Q20. 派遣校にアシスタント教師は、何人いますか？

A. 基本的には参加者本人のみですが、前任者と期間が若干異なる場合もあります。また、他の機関から受け入れられている場合も希にあります。

Q21. 派遣校ではどのような服装が適切ですか？

A. スタッフの服装は学校によても様々ですが、基本的にカジュアルな服装（ポロシャツ、キュロット、ズボンなど）で大丈夫な学校がほとんどです。しかしジーンズやTシャツなどは好まれない場合がありますので注意が必要です。私立の学校は服装に厳しいのでセミフォーマルな服も何着か用意しておくと良いです。

Q22. 荷物が多いのですが先に派遣地に送る事は可能ですか？

A. 可能。しかし前以って派遣校やホストファミリーに連絡する必要があります。

Q23. 喫煙はできますか？

A. すべての学校が基本的に禁煙。ホームステイ先では、必ず家族に断わって外で吸うようにしましょう。

Q24. 派遣後の進路相談とは、どのようなものですか？

A. プログラム終了後、派遣国へ残って進路を決める場合、ビザの可能性等も含めて相談することができます。

Q25. 派遣校に対して出発前にしておくべき事はありますか？

A. 校長先生に必ず手紙を出すこと。自己紹介、学校で生徒に紹介したい事などを手紙、カード、絵葉書に書き、事前に書面で挨拶します。また、学校詳細に書かれているコンタクト・スタッフ、日本語の先生、ホスト・ファミリーにも手紙を出したほうが良いでしょう。